

安全データシート

SDS No.1001-0144

作成日 2013年 4月 4日
改訂日 2020年 5月14日 1/4頁

1 化学品及び会社情報

| | |
|---------------|---|
| 化学品の名称 | : Chromosorb WAW |
| 供給者名 | : ジーエルサイエンス株式会社 |
| 住所 | : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F |
| 電話番号 | : 03-5323-6611 |
| FAX番号 | : 03-5323-6622 |
| 製品コード | : 1001-36203, 1001-36206, 1001-36208, 1001-36210, 1001-36233, 1001-36236, 1001-36238, 1001-36240, 1003- |
| 緊急連絡先 | : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表) |
| 整理番号(SDS No.) | : 1001-0144 |
| 推奨用途及び使用上の制限 | : 試験・研究用 |

2 危険有害性の要約

Chromosorb WAWはGC分析用充填剤です。本製品がカラムに充填された場合、外部に漏れ出すことはありませんが、情報提供の観点から、以下に充填剤の情報を記載します。

充填剤自体の情報も以下の通りです。

| | |
|-------------|--|
| GHS分類 | : 分類できない |
| 物理的及び化学的危険性 | : 通常の取り扱いでは危険性は低い。 |
| 健康に対する有害性 | : 皮膚に対する刺激性はほとんどない。粉塵を大量に吸入すると有害である。 経口毒性は低いが大量に摂取すると、有害である。 眼、粘膜に接触すると刺激作用がある。長期ばく露により、不快感、腹痛、下痢、吐き気等の症状が出る恐れがある。 |
| 環境への影響 | : データなし |
| その他の情報 | : 内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に業務委託すること。 |

3 組成及び成分情報

| | |
|-------------|-----------------------------|
| 化学物質・混合物の区分 | : 化学物質 |
| 化学名(又は一般名) | : Chromosorb WAW |
| 別名 | : 硅藻土 |
| 含有率 | : 100% |
| 化学式又は構造式 | : SiO ₂ (主成分として) |
| 官報公示整理番号 | : 設定されていない |
| CAS No. | : 68855-54-9 |

4 応急処置

| | |
|-----------------------|---|
| 吸入した場合 | : 新鮮な空気の所へ運び、安静保温に努め、直ちに医師の手当を受ける。 |
| 皮膚に付着した場合 | : 石鹼と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当を受ける。 |
| 眼に入った場合 | : 直ちに、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。 こすると眼球を傷つける恐れがあるのでこすらないこと。 直ちに医師の手当を受ける。 |
| 飲み込んだ場合 | : 口をすすぎ、大量の水で薄めて、直ちに医師の手当を受ける。無理に吐かせないこと。 |
| ばく露した場合 | : 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。 |
| 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状 | : 眼や皮膚、粘膜に接触すると刺激性がある。長期暴露により不快感、腹痛、下痢、吐き気等の症状が出る恐れがある。 |
| 応急措置をする者の保護 | : 救助者は適切な保護具を着用すること。 |

5 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 火災時の特有危険有害性 : 火災によって刺激性、もしくは有毒なヒューム(またはガス)を発生するおそれがある。消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 特定の消火方法 : 移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動の際は、適切な空気呼吸器と化学用保護衣を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、

保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。

漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚や眼に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項

: 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起さないように注意する。

汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

封じ込めおよび浄化の方法および機材

: 適切な保護具をつけて処理すること。漏洩物を掃き集めて密閉できる容器に回収する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 眼、皮膚への接触を避ける。取扱後は手や顔をよく洗うこと。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落とさせ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
- 漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵を発生させない。
- 使用後は容器を密閉する。
- 吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
- 取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
- 指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
- 休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではならない。

保管

- 適切な保管条件 : 直射日光を避け、換気の良いなるべく涼しい場所に密閉して施錠保管する。
- 技術的対策 : 特になし
- 混触危険物質 : 酸性物質、酸化剤
- 安全な容器包装材料 : ポリエチレン等(密閉できるもの)

8 暴露防止及び保護措置

設備対策

: 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度 作業環境基準

: 設定されていない

許容濃度

: 吸入性粉塵 0.5mg/m³、総粉塵 2mg/m³(珪藻土)

: 設定されていない

: 設定されていない

保護具

呼吸器用の保護具 : 防塵マスク、自給式呼吸器、送気マスク等

手の保護具 : 保護手袋

眼の保護具 : 保護眼鏡、側板つき保護眼鏡(必要によりゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具 : 保護衣、保護長靴

適切な衛生対策

: マスク等の吸着剤の交換は定期的または使用の都度行う。

取扱い後はよく手を洗う。

9 物理的及び化学的性質

| | |
|------------------------|----------------------|
| 物理状態 | ：顆粒 |
| 色 | ：白色 |
| 臭い | ：データなし |
| 融点/凝固点 | ：データなし |
| 沸点または初留点 | ：データなし |
| 可燃性 | ：データなし |
| 爆発下限界及び爆発上限界 | ：データなし |
| 引火点 | ：データなし |
| 自然発火点 | ：データなし |
| 分解温度 | ：データなし |
| pH | ：データなし |
| 動粘性率 | ：データなし |
| 溶解度 | ：水に不溶。アルコール、アセトンに不溶。 |
| <i>n</i> -オクタノール／水分配係数 | |
| log Po/w | ：データなし |
| 蒸気圧 | ：データなし |
| 密度及び/または相対密度 | ：データなし |
| 相対ガス密度(空気=1) | ：データなし |
| 粒子特性 | ：80/100 mesh |

10 安定性及び反応性

| | |
|-----------|---------------------|
| 反応性 | ：空気中の水分、炭酸ガスを吸収しやすい |
| 化学的安定性 | ：通常の条件下で安定。 |
| 危険有害反応可能性 | ：データなし |
| 避けるべき条件 | ：湿気、日光、熱、炭酸ガス |
| 混触危険物質 | ：酸化剤、酸性物質 |
| 危険有害な分解成分 | ：一酸化炭素、二酸化炭素 |

11 有害性情報

| | |
|------------------|--------|
| 急性毒性(経口) | ：データなし |
| 急性毒性(経皮) | ：データなし |
| 急性毒性(吸入：蒸気) | ：データなし |
| 急性毒性(吸入：粉じん、ミスト) | ：データなし |
| 皮膚腐食性/皮膚刺激性 | ：データなし |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | ：データなし |
| 呼吸器感作性 | ：データなし |
| 皮膚感作性 | ：データなし |
| 生殖細胞変異原性 | ：データなし |
| 発がん性 | ：データなし |
| 生殖毒性 | ：データなし |
| 特定標的臓器毒性 | ：データなし |
| 誤えん有害性 | ：データなし |

12 環境影響情報

| | |
|-----------|-------------------------------------|
| 生態毒性 | ：データなし |
| 残留性・分解性 | ：データなし |
| 生態蓄積性 | ：データなし |
| 土壤中の移動性 | ：データなし |
| オゾン層への有害性 | ：本製品中の化学物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。 |

13 廃棄上の注意

| | |
|----------|--|
| 残余廃棄物 | ：廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。 |
| 汚染容器及び包装 | ：空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。 |

1 4 輸送上の注意

国際規制

| | |
|--------|--------------------|
| 海上規制情報 | : IMOの規定に従う。 |
| UN No. | : 規定されていない |
| 海洋汚染物質 | : 非該当 |
| 航空規制情報 | : ICAO/IATAの規定に従う。 |
| UN No. | : 規定されていない |

国内規制

| | |
|--------|--------------|
| 陸上規制 | : 非該当 |
| 海上規制 | : 船舶安全法に従う。 |
| 国連番号 | : 規定されていない |
| 海洋汚染物質 | : 非該当 |
| 航空規制情報 | : 航空法の規制に従う。 |
| UN No. | : 規定されていない |

1 5 適用法令

| | |
|------------|-------|
| 毒物及び劇物取締法 | : 非該当 |
| 労働安全衛生法 | : 非該当 |
| 化管法 | : 非該当 |
| 化審法 | : 非該当 |
| 消防法 | : 非該当 |
| 船舶安全法(危規則) | : 非該当 |
| 航空法 | : 非該当 |
| 海洋汚染防止法 | : 非該当 |
| 水質汚濁防止法 | : 非該当 |
| 大気汚染防止法 | : 非該当 |
| 土壤汚染対策法 | : 非該当 |
| 廃掃法 | : 非該当 |

1 6 その他の情報

引用文献等

ezSDS、ezCHRIC 日本ケミカルデータベース株式会社
 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
 化学品安全管理データブック、化学工業日報社
 16918の化学商品、化学工業日報社(2018)
 航空危険物規則書 第52版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によつて確かめられることをお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。